

ラリー研修

1年次で経験し、2年次は主催する側に参加する実践学習
一寸先がわからず、何が突発的に起こるかわからない状況を
野外にシミュレートし、その心構え、対処のしかたを体得するもの
である。その効果としては、

- ・課題解決のステップとやりかたが学べる
- ・チームマネジメントの原理を体得できる
- ・リーダーとしての戦略決定や判断力・決断力を高められる



技能訓練

機械加工、電子複合などの技能向上に向けた訓練
技能向上はもちろんであるが、

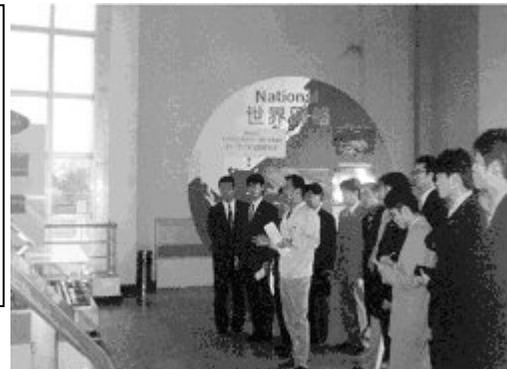
- ・目的を達成するための順序だった思考、課題形成と問題解決能力の醸成
- ・やりきることに対する執念、粘り等執着心の向上
等ヒューマン面での個人資質の向上を目指している



海外研修

中国、シンガポールの松下関連会社を訪問
海外でのものづくりの実態を知り

- ・国内でのものづくりの課題・解決策を自分なりに考察
 - ・海外進出、オペレーションの理解と知識向上
- 語学の実践学習と海外文化を知り、海外勤務にたいする抵抗感の排除と近親感の醸成



応用課題研修

2年間で学んだ基礎・応用技術及び技能を実務に応用する訓練

- ・所属する事業場の課題・問題点を抽出し
 - ・具体的に解決をするための要素開発を行う
 - ・卒業後実際の生産ラインへ導入する
- 短大での学習の集大成であり、自ら課題形成を行い、具体的に解決していく中で技術・技能レベルの向上、納期管理等の手法を身に付けさせ、卒業後の実践力をつける



全松下モノづくり競技大会

大会の目的は、社内で自前の設備を開発するに当っては、優れた設計と高い能力が不可欠との思いから、昭和37年に、第1回の全松下技能競技大会が開催され、全社から「旋盤」、「仕上げ」の2種目に約100名が参加して実施された。当初は競技種目も国家技能検定の職種が中心であったが、年々技術革新が進み、また製造現場に要求される技能要素も多岐にわたってくる中で、その時々に必要なものを見直し、改廃して、現在では国家検定種目16、社内検定種目10、社内認定種目2、独自種目5、合計33種目となった。特に独自種目には、近年注目を浴びているデジタルモノづくりの代表3次元CAD、3次元CAD/CAM、CAEや、精密X-Yテーブルを用いたμmmレベルの組立て・測定技術、また、マイコン制御、レーザー光軸調整技術等についての競技を随時追加。本年、第40回の節目の大会を迎え、グループ大会(予選を兼ねる)の参加者は海外を含め5,500名を超え、更に全社大会には各グループ大会で上位入賞を果たした選手の中から推薦された1,200名強の選手が会場に集まり、「技」を競った。なかでも女性の参加者は約1割を占め、また海外からは3カ国、19名が参加し、金賞を含む5名が入賞を果たした。グローバル企業として、まだ十分とは言えない中で国内・外の全松下グループのモノづくりに携わる多くの人たちの「モノづくり力強化のための研鑽の場として」この競技大会を更に進化させていく必要がある。

